

ワークショップ 音楽劇「囚われの女たち」を語る会

ネオ書房@ワンダー2 階 カフェ

開催日時：2026年9月18日（金）18時半～20時半（21時撤収）

参加費： 観劇チケットをお持ちの方 無料+1ドリンク(500円)

観劇チケットをお持ちでない方 500円+ドリンク(500円) ⇒カフェ会場でチケットをご購入の方は観劇チケット代から500円お値引き致します。

お申込 メールにてお名前、チケットの有無をお報せください mementocdefg@gmail.com

東京都千代田区
神田神保町2-5-4 ワンダービル2階
(地下鉄神保町駅 A1 出口、右手にまっすぐ 30 秒)

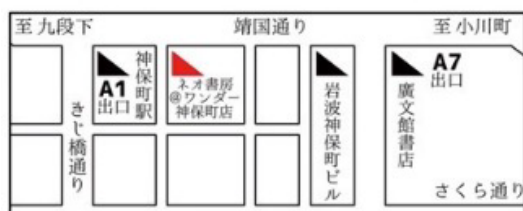
お問い合わせは kirira@nifty.com

プログラム

*原作小説 山代巴著「囚われの女たち」（径書房）について

*第一作目のダイジェスト上映（DVD）10分程度

*戦時下の文化的抵抗・中井正一と山代吉宗のフロンポピュレール



*出演者トーク 劇中歌披露 末武あすなろ キアラ・コマストリ 観世葉子 嶽本あゆ美 他

書籍販売：山代巴関連本 メメントC 関連本

登壇ゲスト：キアラ コマストリさん

早稲田大学講師。イタリア・ボローニャ出身。英国オックスフォード大学で歴史学の博士号を取得。学部生時代に広島大学へ留学したことをきっかけに、作家の山代巴に関心を持ち、以来、その生涯と作品について研究を続けています。日本語による論文としては、「山代巴の原点——『路のとう』をめぐって」（宇野田尚哉・坪井秀人編『対抗文化史：冷戦期日本の表現と運動』大阪大学出版会、2021年）など

音楽劇「囚われの女たち」の企画意図

山代巴は広島県に生まれ、農村女性の解放を訴え、原爆被害の記録活動を続けたドキュメンタリー作家、女性解放運動家。代表作は、小説「荷車の歌」、原爆被害者の聞き書き「この世界の片隅で」の編著などで知られる。山代の自伝的小説「囚われの女たち」を原作とした音楽劇が、2026年3月の女性の人権平等を訴えるミモザ・フェスティバルにて初演された。フェスタの観劇者より、再演希望が多数寄せられた。今回のSideB フロンポピュレール版では、巴の精神的支柱で、戦時中に獄死した夫の山代吉宗を中心とし、常盤炭鉱闘争や若い女性都市労働者の労働運動を描く。楽曲は、ミュージカル、ゴスペル・コーラスを中心とし、女性の連帯を歌いあげる音楽劇

（作・演出・作曲 嶽本あゆ美 メメントC+「囚われの女たちを上演する会」）

#東京舞台芸術祭 #赤坂芸術祭 #東京舞台芸術祭 2026Open Call Programs